

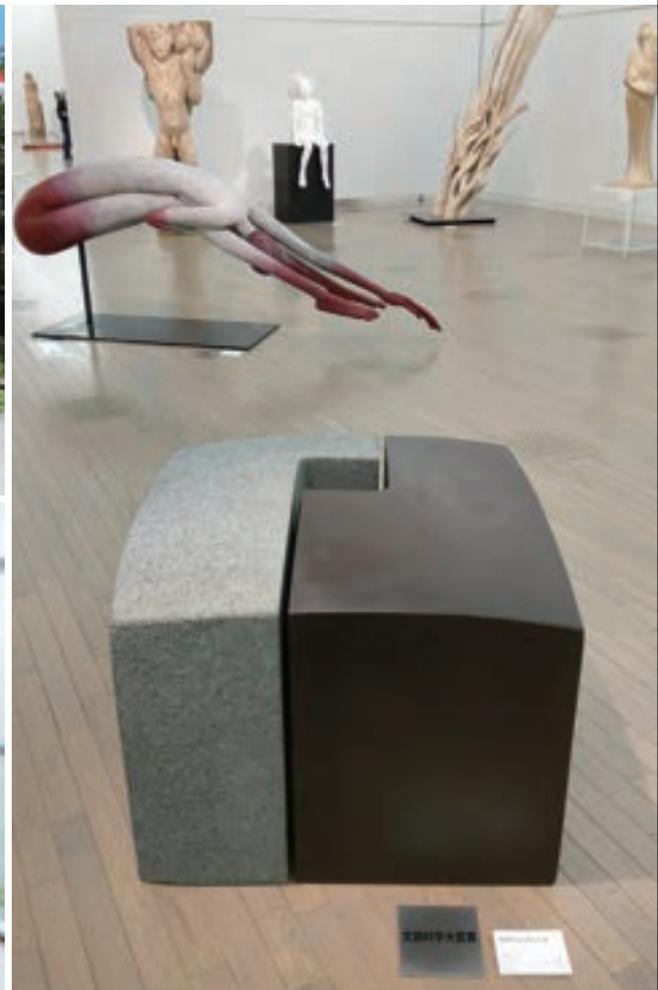
No.76 contents

- 2 第104回二科展を迎えて
- 3 〈絵画〉第104回二科展総評 第104回二科展 受賞者一覧
- 4 〈絵画〉第104回の展示
- 5 〈絵画〉第104回二科展 受賞作品一制作の視点
- 6 〈絵画〉104回展会場から一私の選ぶ作品寸評
- 8 〈絵画〉新会員紹介 第104回二科巡回展 2020春季二科展選抜出品予定者
- 9 〈彫刻〉総評 新会員紹介
- 10 〈彫刻〉受賞作品一制作の視点 受賞作品寸評
- 12 event memo(オープニングセレモニー/授賞式/懇親会/作品研究会/ギャラリートーク/
ナイトミュージアム/二科ショップ・チャリティー報告/写真部・デザイン部)
- 14 東北支部連合展 五回展を終えて
- 15 バリ賞 研修報告 第104回二科展 特別展示企画
- 16 計報 2020春季二科展予告 トピックス 帝国ホテル二科サロン
事務局だより 編集後記



秋季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<https://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646
 E-mail：nika@nika.or.jp



104TH NIKA ART EXHIBITION 2019



審査室にて 絵画部会員

第104回ニ科展を迎えて

田中 良

例年ではあるが台風接近を警戒しながら、第一〇四回ニ科展がウクライナ交流展示など特別企画を得て、華々しく開催出来た。殊に女性会員の進出が目覚ましく、各部の参加者の努力のあとが見られたのが印象的だった。コロナ展示は各部の参加協力も軌道に乗ってきて、更なる展開を期待したい。

東京オリンピックの故もあるが、外国人の来観者も増える傾向にあり、その方の考慮もしなくてはならないと思う。入場者数約8万9千人とまずまずの成果で閉会し、出品者増加への課題もあるが、更なる御努力、啓発をお願いすると共に、事務局、各係員に深く感謝致します。



絵画部会場 第1室

第104回ニ科展

総評

生方純一

この数年、少子化や高齢化が原因と言われて絵画部、彫刻部とも出品者が漸減気味だったが、第104回展では両部とも若干ではあるが昨年より出品者が増えてきている。特に二科展の制作時期や搬入は真夏であり、近年の気候の異常さもあって、厳しい環境が続いていた。

そんな状況にも拘らず、出品者が増えていることは関係者にとっては大変に喜ばしいことだった。応募作品も年々充実し、表現の幅も広がってきている。しかし、審査をしてみると絵画部では受賞者や会員・会友推挙、2点入選などが例年より可成り少なく厳しかった。公平を期する審査で厳選になったと言える。

彫刻部も例年よりも落選者が多かったが、新境地を拓くような作品も目立った。今回はウクライナ大使館からのオファーもあり、ウクライナ作家の小品展示に一室を設けた。ウクライナの関係者は海外での様々な展示会に参加したのは初めてと喜んでいました。

また、展示会の魅力をアピールするギヤラリートークの工夫や充実、ナイトミュージアムを楽しんでいたミニコンサートなど広報担当者の努力が窺われた。二科ショップと彫刻部の入口の壁に「キッズゲルニカ」という国際プロジェクトに参加した「なみえ創成小・中学校」生徒16名による大作が展示された。キッズゲルニカはパプロ・ピカソの「ゲルニカ」にちなんでゲルニカと同じサイズの画布に子供たちの「希望や夢」を自由に表現してもらおうという国際プロジェクト。この作品は海外からのオファーがあれば、何処へでも貸し出すことになっている。そのため日本を代表する富士山と大空を自由に泳ぐ鯉のぼりを描いた。下には16名の生徒の姿が描かれている。二科会員の助成により二日間で描き上げた作品で、彫刻部の野外展示場にも海外からの作品など8点を展示した。5回目となるコロナ展示はデザイン部、写真部の協力も得て益々充実。今年は特に海外の著名人の作品もある「起き上がりこぼし」も併せて展示した。

会期中は猛暑や台風による交通機関の乱れ、停電などの災害も続いたが、例年通り盛況だった。また会場には海外からの鑑賞者の姿も増えて国際的な雰囲気になってきている。ご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

第104回ニ科展 受賞者

内閣総理大臣賞 深見 まさ子〔神奈川県〕
 文部科学大臣賞 上田 快〔山梨県〕
 東京都知事賞 佐野 明子〔新潟県〕

(絵画部)

- 二科賞 坪田 裕香〔石川県〕
 パリ賞 日比野 恵美〔愛知県〕
 損保ジャパン日本興亜美術財団賞 山田 圭子〔岩手県〕
 上野の森美術館奨励賞 前川 普佐雄〔埼玉県〕
 会員賞 大桑 和子〔石川県〕
 大島 麻琴〔愛知県〕
 楠岡 和子〔福岡県〕
 野平 智広〔鹿児島県〕
 山中 惇孝〔京都府〕
 会友賞 岩田 一男〔山口県〕
 川人 和行〔東京都〕
 黒川 美紗子〔愛媛県〕

- 河野 眸〔東京都〕
 芝田 満江〔神奈川県〕
 鈴木 真木子〔茨城県〕
 鈴木 文明〔東京都〕
 筒井 通子〔奈良県〕
 中村 紘子〔東京都〕
 新川 久子〔岐阜県〕
 橋本 弘子〔東京都〕
 福島 菜菜〔京都府〕
 宮本 恵美子〔岩手県〕
 安坂 伸司〔東京都〕
- 河野 眸〔東京都〕
 上石 直美〔福島県〕
 有馬 広文〔鹿児島県〕
 石川 由巳子〔宮城県〕
 小野 由紀子〔福岡県〕
 渋谷 良子〔千葉県〕
 田中 節子〔神奈川県〕
 三宅 敦子〔岐阜県〕
- 猪立山 三鈴〔福岡県〕
 糸曾 ひろこ〔東京都〕
 太田 臣一〔東京都〕
 加藤 弘子〔埼玉県〕
 黒川 壽子〔千葉県〕
 小原 禎二〔神奈川県〕
 佐藤 幸光〔東京都〕
 武部 美智子〔青森県〕
 田原 馨〔広島県〕
 島中 富雄〔大阪府〕
 日比野 恵美〔愛知県〕
 矢澤 恵子〔神奈川県〕
 吉村 彩菜恵〔石川県〕
- 会友推挙 上林 泰平〔長野県〕
 新人奨励賞 儀貝 享平〔大阪府〕

(彫刻部)

- 二科賞 該当者なし
 ローマ賞 二ノ宮 裕子〔東京都〕
 彫刻の森美術館奨励賞 増田 麻由〔神奈川県〕
 会員賞 中村 淳子〔岐阜県〕
 会友賞 荻野 弘一〔新潟県〕
 カツノ ユキコ〔東京都〕
 中山 憲雄〔愛知県〕
 長谷川 聡〔神奈川県〕
- 特選 佐藤 しず子〔宮城県〕
 平良 光子〔神奈川県〕
 玉田 真理〔神奈川県〕
- 新人奨励賞 重清 美咲〔東京都〕
 会員推挙 長谷川 登〔東京都〕
 藤沢 恵〔埼玉県〕
- 会友推挙 大坪 義武〔静岡県〕
 澤田 志功〔埼玉県〕



ウクライナとの交流展示



■東京都知事賞 アルルの女(ピゼー) F130 佐野 明子



■内閣総理大臣賞 悠久へのプロローグ2019 194×324 深見 まさ子

東京都知事賞 佐野 明子

思いつくまま音楽を聴きながら、下地もかかずに始める。まず、ドンゴロス(麻布)を置きたいところにボンドで張り、どんどん布や紙をクラージュし、油彩をつける内に色が決まり形ができてきたら、全体を見てヒモや線で流れを作る。

朝起きて又見て、加えたり取ってみたりの繰り返しです。

内閣総理大臣賞 深見まさ子

遥か彼方へ繋ぎ行く想い、果てしなく遠い彼方へ何を繋ぎ何を想像するのだろうか。

知ることのない未来を見つめ、たった一つの言葉を探しに、そして：いつの日にか：エピソード。

私は今ここに居る、と云う状況を、過去の情景と身近なモチーフを用いて、心象的に表現しています。

受賞作品
制作の視点



■パリ賞 デジタルキャット2 F100 日比野 恵美



■二科賞 In the Water B F100 坪田 裕香



■二科新人賞 私を分かつ灯よ F100 上林 泰平



■上野の森美術館奨励賞 初秋の林檎畑 F100 前川 普佐雄



■損保ジャパン日本興亜美術財団賞 ZEN REI 2019-IV F100 山田 圭子

第104回二科展
受賞作品

第104回の展示

中島敏明

今回の展示特色は、ウクライナ作家交流展・起き上がりこぼし・キッズゲルニカ大作展示で、反響を呼んだ。

絵画部の展示については会員165点・会友300点・入選724点・特別陳列25点・合計1,214点の陳列であった。

第1室は少し広い空間に理事・監事・評議員のベテラン作品を並べ例年の賑わいとなった。4室はミニコンサート会場になる8室と繋ぎスケール感を演出。大臣賞の深見まさ子・都知事賞の佐野明子等の大作を揃えインパクトを与えた。

13室は旧九室会がモデルだが、伝統やスタイルを復活させるのではなく、その精神を復活。今を生きる令和の野獣派ともいべき作品を中心に展示し最近注目を浴びている。

1C棟は14室から彫刻会場が見えるように15、16室間の可動パネル一枚を取

り外し、広さと誘導線を回り、彫刻部、絵画部共に好評を得た。展示作品は二科賞の坪田裕香・会友賞4名・会員推挙7名いずれも2点入選を中心に並べ、見応えのある次世代有望な部屋となった。

2階に於いては、1室にパリ賞の日比野恵美・損保ジャパン日本興亜美術財団賞の山田圭子・会友賞4名を正面に活力に富む個性派を揃えて、若い力の闘ぎ合いを見せた。2室は具象傾向の秀作、8室は純粹の抽象秀作、いずれも2点入選の受賞作品を柱とした力作を揃え見応えのある部屋とした。

3階は1室とU35奨励室をワンフロアとし、ゆったり鑑賞できるようにした。1室に上野の森美術館奨励賞の前川普佐雄・会友推挙2名・特選2名を柱にたて、12室は二科新人賞の上林泰平・新人奨励賞の磯貝亨平・特選1名・加えて会友のU35竹淵直美・中村百合江・野上さやか・吉井愛・長谷川晴香・吉田紗知の6名が質の高い作品でU35の部屋を牽引。次世代の有望な人材が確実に力をつけてきた証である。

2室は一般入選の具象秀作部屋・11室は抽象の秀作部屋と特色を打ち出した。又、初入選は約80人いたが、その中で初の秀作部屋を5室に設置、初入選のレベルの高さをアピールできた。中には初出品で特選もあった。

展示委員会は今日まで必要に応じて改革推進を行ってきた。国立新美術館に移行以来12年が経過。先般の理事会に於いて、展覧会の更なる充実を図るために展示委員会の機構改革時期と判断して新展示委員を決めた。絵画部(森岡謙二・粕谷正一・田浦哲也・入佐美南子・埴珠世)彫刻部(小林亮介・藤巻秀正・津田裕子)以上8名が評議員から選出された。

新たな発想で可能性の扉を開いてくれることと思います。皆さんと一緒に新二科会を築きましょう。



1F-13室



2F-1室



1F-14室



3F-1室



1F-15室から彫刻室へ

104回展会場から—私の選ぶ作品寸評



上林 泰平 私を分かちつ灯よ F100



出月 智子 La Vie 1 F100



福島 菜葉 歩く花と異次元の風景 S80

白い炎を纏った裸婦。インパクトのある作品であるが、ボールペンやマジックペンでの描写、焼け焦げを施した紙の貼付等ストレートな表現が目立つ。エスキースとしては理解できる。近くで見ると画面の荒さが目立つ。そこが魅力なのかも知れないが。(粕谷正一)

上林 泰平

作意的でなく、日頃目にしている自然を自由に描き進めていくうちに、幻想的な静寂さの表現につながっている。色彩を極力抑さえ冷たい色調の画面は心に安らぎを与え、見る者の心を慰めてくれる。真摯に立ち向かう制作姿勢が絵画性を高めていて魅力的である。(瀧澤賢福)

出月 智子

華やかさに向うぎりぎりの空間扱いが伝わる作で、天地左右バランスへの彩色が絶妙、この着物が似合う女性に逢いたい。西洋の風がより渡るのを望むのは、望み過ぎかも。(瀧澤賢福)

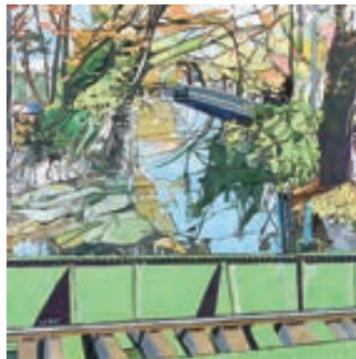
福島 菜葉



吉村 彩葉 Ryu(流)Ⅲ F100



小南 治次 みずべⅠ F100



太田 臣一 用水路を渡る鉄橋 S80

「中空を舞う」を主題とした作は、本会にも先達が居ます。とてもグローバルな確率と認知された世界感で外国人も歩を止める開放されたテーマ、次作に前進して欲しいと同時に大変期待しています。(瀧澤賢福)

吉村 彩葉

画面下部の正方形の構図の中に、浮草が大小のアクセントとなり水面に散り、右の水に映る空の色が目線を上部の森へと導く。水面の樹木は、ハンパーガーのような塊に見えるのも面白い。構図の考え抜かれた地味ではあるが、しっかりとした風景画である。(粕谷正一)

小南 治次

風景画の基本は、前景、中景、遠景の設定にある。前景の画面下の鉄橋が効果的である。残った画面を様々な大きさの色面に分割し、爽やかな秋の好日を表現している。ステンドグラスの銅線のような分割線もリズムカルで心地よい。画面上の不規則な凸凹は不要。(粕谷正一)

太田 臣一

104回展会場から—私の選ぶ作品寸評



岩田 一男 月の雫Ⅲ(明日に向かって) F100



鈴木 真木子 界Ⅱ F100



橋本 弘子 変わる街 F100

構造的な構成と精緻な描写で表現されており、色彩も統一され、静寂な空間を感じる作品です。月の光が零れ落ち、背景の表現も果てしない宇宙に繋がる奥行きを感じさせ、画面に惹き込まれる、魅力ある神秘的な世界観が表出されています。(入佐美南子)

岩田 一男

画面に大きく流れるような曲線の構成と、街並みの建物のような直線的な形態が、バランス良く配置されています。マチエールや、絵の具の層の下に見える色も考慮され、周囲の白と複雑な構造をした建物などの色調の対比が美しく、効果的に表現されています。(入佐美南子)

(入佐美南子)

鈴木 真木子

鉄のかたまりが倒れてくる。積木遊びのように、スクラップ・アンド・ビルドされて行く都市に作者は大きな問題を感じている。人の人生を無視して移り変わっていく街。大きなマッスの中に、人が飲み込まれていくのを感じる。明日への希望を感じさせる一本の線が欲しい。(堀尾一郎)

橋本 弘子



筒井 通子 海の詩Ⅱ F100



川人 和行 連生3 F100



中村 絃子 夢幻 F100

補色の対比で構成された、インパクトのある作品です。画像に歪みを施したような形態は、不思議な感覚を与え、見る者を惹きつけます。水面が揺らぎ、映り込むヨットなどをユニークな形態として捉え、波形の表現方法の工夫もあり、メリハリのある魅力的な画面となっています。(入佐美南子)

筒井 通子

紙風船が破れて風に飛んでいる。色のついたアルミ箔が浮かんでいる。飛ばされていく人生を表現したかったのだろうか。又はうつろい行く社会の激変を感じているのだろうか。あわい色彩が、ほっとさせる。連生とは人の誕生と死を描いたのだろうか。(堀尾一郎)

川人 和行

白い花が咲いている。布のような物が浮いている。女のかみのけがぶらさがっている。チョウが舞っている。見る者の心を不思議な世界に誘いこむ。つめたい青白い色彩が現代社会にひそむ不安をうまく表現している。赤い舌のような形が作品のじゃまをしている。(堀尾一郎)

中村 絃子



彫刻部 集合写真



品者46名、会友32名、会員49名、遺作出品会員2名、総勢129名からなり、其の作品の全容を披露する事となった。

さて、彫刻部の会場へ歩を進めると、私自身展示担当として参加しており身びいきな見方をしてしまいがちであるが、全体のゆったりとした感じの展示には救われる思いがしたのである。昨年にして会場の展示面積の減少を感じさせない様子に、その工夫が覗えたのである。絵画部の会場から彫刻部の会場への来場者の導線に注視し、尤も絵画部の協力を得られての話であるが、展示会場の境界に違和感の減少が窺われ、会場間の連続性の向上が見られ展示室へのアプローチの改善を図ることが可能となり、その境界から会

場全体を見通せるどころから、各展示室の雰囲気の違いも感じられる等、会場の閉塞感を和らげる効果もたらしたと思う。又、彫刻の展示室への導線の中心がA室に偏り、その概念的な感慨が硬直化して来ている点の改善も見られて、彫刻部に於ける全員の持ち回りに拠る展示委員制度の、成果と言いつても得る所であろう。

尚、二科会彫刻部の特色の一つとして、色々な幅広い傾向を飲み込んだ全体の雰囲気になり、それが、そして、作品の大きさや質に恵まれた点もあつたと考えられるが、この作品群は創意に於いて多面的な広がりを見せている存在を誇示するに至っている様に思えたのである。近年顕著な傾向にあるいわゆる素材に基づき、量感や構成に因る傾向の作品ではなく、着彩色された作品の多さに驚きを持つと共に、その主張が混合した様子の顕著なる所も浮彫にされたと思う。

又、来館者の動向は如何なるものかと目を凝らしてみると、計画して展示した側の予想との違いや、作品に込められた作者の思いを読み解く様に鑑賞する様など、色々知る事が出来て楽しめた、今年の二科展彫刻部の会場であった。

彫刻部 総評

小田 信夫

第104回二科展が9月4日から16日に亘り、国立新美術館全館を使用し開催された。そのオープニングには、ウクライナ大使を始め来賓の方々によるテープカット等が有り、華やかで艶やかな様相を呈した。そして彫刻部の陣容は一般出

彫刻部 新会員紹介



抽象的な存在を具体化し言葉にすることは難しいことですが、それでも人に伝えたいと感じるもの、他のなにもでもないそれではないものをつくりたいと望んでいます。今後も、揺らぎ続ける境域を表現可能にする技術と感性を磨いていきたいと思っています。

太陽の光と水の循環、全ての生命の根源でありながら時に脅威でもあり続ける存在への畏怖と憧れをテーマに形を表現して来ました。強大で超え難い存在への感動を大切に今後は日常の感動にもしっかりと向き合せて真摯な態度で制作を続けて行きたいと願っています。

長谷川 登

藤沢 恵

絵画部 新会員紹介

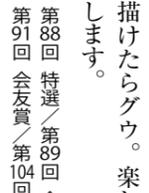


上石 直美

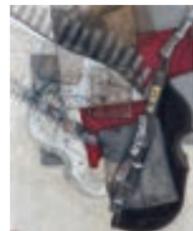


ゆらぎ1902

泥沼にあっても強く美しく凜と立ち上がる蓮のように生きたいと思いつつながら、その情景に自分の心情を投影して描いています。



田中 節子

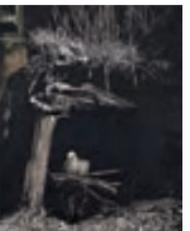


スピリット3

物語性を感じさせる作品は面白いが、形が見え過ぎたらアウト。抽象具象表現も同様で、その間をうまく描けたらグウ。楽しさが増します。



小野 由紀子



暮し

モノクロで表現することで人間の深奥、特に老人の心の内を描ければと創り上げております。



石川 由巳子



鼓動Ⅲ

いのちの尊さと神秘性、目に見えない世界、そして心の奥の奥が共鳴するものを試行錯誤しながら追求しています。



渋谷 良子



きおくのかけらⅠ

無限に広がる空間を漂いながら自己の感性に手繰り寄せられて現れた、色と形。刹那を画布にとどめる飽くなき作業か。制作とは。



三宅 敦子



沈黙の刻

画面の中に刻まれた時の記憶。過ぎていく時間の中で沈黙のトルソに語らせた」と描いています。



有馬 広文



理想郷への旅(旅立ちの日)

理想郷への旅は、絵を描いている今の環境に深く感謝し、過去から現在、そして未来へと歩いていくことを絵にしたものです。

第104回 二科巡回展

- ◆金沢展 令和元年10月3日 10月14日 金沢21世紀美術館 ギャラリーA
- ◆大阪展 令和元年10月30日 11月10日 大阪市立美術館
- ◆京都展 令和元年11月12日 11月17日 京都市美術館 別館
- ◆東海展 令和元年12月10日 12月15日 愛知県美術館 ギャラリー
- ◆広島展 令和2年1月15日 1月20日 広島県立美術館 県民ギャラリー
- ◆鹿児島展 令和2年3月7日 3月15日 鹿児島県歴史資料センター 黎明館
- ◆福岡展 令和2年3月17日 3月22日 福岡県立美術館

2020 春季二科展 選抜出品予定者

- | | |
|--|--|
| <p>彫刻部</p> <p>(会友) 荻野 弘一(新潟) カツノユキコ(東京) 中山 憲雄(愛知) 長谷川 聡(神奈川) (一般) 佐藤しず子(宮城) 重清 美咲(東京) 平良 光子(神奈川) 玉田 真理(神奈川) 増田 麻由(神奈川)</p> | <p>絵画部</p> <p>(会友) 川人 和行(東京) 黒川美紗子(愛媛) 河野 眸(東京) 鈴木真木子(茨城) 鈴木 文明(東京) 田原 馨(広島) 中村 紘子(東京) 新川 久子(岐阜) 橋本 弘子(東京) 福島 菜葉(京都) 安坂 伸司(東京) 出月 智子(山梨) 岡田祐加子(大阪) 小幡 敏子(群馬) 河村 尚善(愛知) 上林 泰平(長野) 小南 治次(滋賀) 櫻井 篤子(静岡) 佐藤 雅也(石川) 須佐美恵子(大阪) 鈴木 裕己(岩手) 土屋真理子(愛知) 坪田 裕香(石川) 野口 一夫(埼玉) 前川普佐雄(埼玉) 森本 啓子(広島) 米村 保明(熊本) 若松由利子(石川)</p> |
|--|--|



特選 気配 佐藤 しず子



会友賞 水面と 長谷川 聡



会友賞 element カツノ ユキコ

特選 佐藤しず子
肩を硬直し、うつ向いた顔のポーズは自身の震災体験から発している。問いかけると笑顔で語りかけてくるような静から動への躍動感を感じさせるのはこの作品の魅力であり作者の力量だと思ふ。

正当法の一本彫りは誠実で頼もしい。(藤巻 秀正)

会友賞 長谷川 聡
重なり合う波紋に微妙にゆらぎを持つ搭状の形が挿さるそれは、雷ほど強くはない。作者特有の表現だろう。確かな存在感がある、反面表現の弱さも内包してしまう、表現者のジレンマの部分であろう、空間の余白の美しい作品である。(佐々木 至)

会友賞 カツノ ユキコ
立方体にカットしたケヤキ材を、隙間無く集積した作品である。雲形に削り込んだ所に内側を覗き穴が数か所開いている。集積された力強さが見て取れる。曲面との対比は面白いが、穴のサイズに一工夫ほしい。(島田 絃二呂)



新人奨励賞 友達の家には 重清 美咲



特選 イナバウアーの白うさぎ 玉田 真理



特選 極北 平良 光子

新人奨励賞 重清美咲
友人が飼っている動物を信楽粘土で作成した作品である。対象にむけた温かい眼差しが素直に作品に現れて、観る者の心にしみ込んで来る。

異素材との組み合わせ方、台座について考慮すると良いと思う。(二ノ宮 裕子)

特選 玉田 真理
いなばの白兔をテーマに。おそいかかる鰐鮫を白兔がイナバウアーで見事にかわす、作者独特の世界を表現した木彫作品です。

丁寧に彫り上げ、仕事に向う誠実な姿勢は将来が楽しみです。自分の思うように思いっきり制作に挑み続けて頂きたいと思います。(津田 裕子)

特選 平良 光子
作者の年齢を聞いて驚いた。木彫の高い技術力と、全体の大膽な構成に老練さを感じたからである。大小の鑿跡は狼の命を彫り起こす作業のように思えるし、石と木の台座はその木彫を効果的に見せる感覚的な仕事で面白い。作者の制作への緊張感が伝わってきた。(宮澤 光造)



会員賞 木の氣 中村 淳子



ローマ賞 うたかた 二ノ宮 裕子



文部科学大臣賞 光のさしこむところ 上田 快

会員賞 中村 淳子
見えない「いのち」と、「こころ」を「氣」に託して木を刻む。カタチを刻む緊張は手先から身体全体へ色から様々な想いを伝えたい。「氣は無限」……より深く感じて戴ける作品が出来たらと願う。

そう願いながら歩み続ける。たゆたう水の煌き。通り抜ける風。刻々と変わる空の色。厳しく、優しく、大らかな自然の姿にそと寄り添い、形を言葉に紡いでゆく。形の中に生命感を投影したい。

ローマ賞 二ノ宮 裕子
刻々と変わる空の色。厳しく、優しく、大らかな自然の姿にそと寄り添い、形を言葉に紡いでゆく。形の中に生命感を投影したい。

文部科学大臣賞 上田 快
ここ数年、自分にとって作品とは何かとよく考えるようになった。造形上の問題だけではなく自分と作品の関係などを思考することの大切さをより感じている。試行錯誤しながらも自分の作品と真摯に向き合う作家でありたいとあらためて思った。

受賞作品 制作の視点



会友賞 森の戦士 中山 憲雄



会友賞 紙の上の絵空事 荻野 弘一



彫刻の森美術館奨励賞 Streamer 増田 麻由

会友賞 中山 憲雄
彼は鉄を素材として森の動物(今年は鹿なのか)を擬人化した表現を通し、根気よく同一テーマで出品してきている。鉄の扱いはずば抜けた力量を持つ作家である。ここから一步を踏み出すため、少し視点をかえた新たな展開を期待したい。(菅原 二郎)

会友賞 荻野 弘一
題名からは情報社会に対する作者の皮肉な視線が感じられるが、多層に切り込みを入れた紙の集積を思わせる花崗岩の塊から空に向かつてのびる人型のスクラムと地を這う影の形の空間構成が面白い。石彫作家が減少傾向にある中で力量を感じさせる貴重な存在である。(西村 文男)

彫刻の森美術館奨励賞 増田 麻由
思わず足が留まる心魅かれる作品です。ねじれた一本の自然な形を利用し、流れる様なのびやかなポーズ。胴体の塊と手足の軽い抜け感の扱い、着彩の赤のグラデーションと黒の対比は、不思議なエネルギーを感じさせています。見事な力作で、若い世代の活躍が楽しみです。(津田 裕子)

受賞作品寸評

9月7日・8日・14日・15日 絵画部ギャラリートーク 4会員がそれぞれ選ぶ作品の解説・鑑賞のポイントを語る



9月7日 田川絵理会員



9月8日 田浦哲也会員



9月14日 吉沢智大会員



9月15日 加藤ひとみ会員

9月8日 彫刻部ギャラリートーク 配布資料を参考に、作品の意図や素材などについてトーク



前田耕成監事



特選 平良光子さん



会友推挙 澤田志功さん

9月6日・13日 ナイトミュージアム 夜8時まで開場



野外彫刻ライトアップ



9月13日 ミニコンサート 岡田浩安 スペシャルトリオ

寄付金総額
 760,000円
 ・NHK厚生文化事業団
 500,000円
 ・浪江町教育委員会
 260,000円
 学校教育係

皆様のご協力により、チャリティー販売の収益の全額を寄付することができました。

4部門会員の協力によるチャリティー販売の作品がショップ壁面を賑わせ、来場の方々の目を引きました。昨年からの絵画部寄贈は額装小品となり、手軽に飾っていただけの利点と、また様々な画材や手法に興味を持っていただけたものと思えます。

◆二科ショップ・チャリティー報告
 ショップでは、作品集、絵葉書、受賞者名簿、コラボ展示の作品目録と参加作家のオリジナル缶バッジを販売しました。



9月4日 10:00 オープニングセレモニー



左より
 キッズゲルニカ国際委員会 代表 金田卓也
 NHK厚生文化事業団 理事長 鈴木賢一
 公益社団法人二科会 理事長 田中 良
 ウクライナ大使 イホール・ハルチェンコ
 起き上がりこぼしプロジェクト 渡邊 実



11:00~ 彫刻オープニングトーク



9月4日 14:00~ 授賞式 3階講堂



内閣総理大臣賞 深見 まさ子



文部科学大臣賞 上田 快

9月4日 18:00~ 懇親会 ザ・リッツカールトン東京



田中理事長挨拶



小品抽選会 当たった!



乾杯 菅原常務理事

9月4日 作品研究会 12:00~14:00 1・2・3階展示室 各会場の担当会員が作品の実践的な講評・研究会を行なった



堀尾一郎会員・益子佳苗会員



岩田博会員



木戸征郎監事



三後勝弘会員



江崎榮彦会員



田浦哲也会員・寺田真会員



海外アートの光の表現
 小原 禎二
 (第103回展 パリ賞)

昨年9月の二科展で受賞させていただいてから、諸般の事情により今年の8月に行きました。行先は、カンディンスキーの絵を多く収蔵しているレンバツハハウス美術館、その他多数の大きな美術館があるミュンヘン(ドイツ)にしました。研修課題は「西洋絵画における光の表現方法を学び、自身の作品で新しい表現価値を創る」に設定しました。

代絵画の企画展、ブランドホルスト美術館(20~21世紀の現代絵画)、ハウス・デア・クンスト(現代絵画の企画展)を見学できました。

ピナコテーク・デア・モデルネでは、該美術館での企画展の開始以来ちょうど10万人目の来館者に私になるという偶然がありました。現代美術部門長のProf. Dr.Schwenk氏及び他職員3名から花束、開催中企画展の作家の作品集及びパイエルン州の美術館の年間入館カードをいただきました。私が昨年の二科展で受賞し、その研修で来たことを伝えると、Dr.Schwenk氏から「絵を見せられるか」と問われ、スマホ画面で受賞作品を見せると、「ダリの絵のようだ」と言っており、同館に展示しているダリの

絵の前
 に案内
 してく
 れまし
 た。そ
 の後同
 氏は開
 催中の
 企画展
 (Raoul

De Keyser、ベルギー、1930~2012)の概略も案内してくれ、大変貴重な体験になりました。

Keyserの絵の、濃い背景色に白く直線的な線が引かれたKrijnen(チヨークライン)と題された作品は、極めてシンプルながら強さと美しさにより強烈な印象を受けました。白い線は稲妻かレーザー光線のような創造的な光のように思えました。

今回の研修では、古典絵画に多く使われている画面全体を優しく包む光、スポットライトのように対象物に視線を集中させる光、ドラマチックな画面を作り出す明暗のはっきりした光、近代絵画や現代絵画で使われている色面で組み立てられた光、視線が踊るような色の斑点で表現された光、強い明暗の境界を持つ際立つ光、鋭く強い線によって切り取られたような強烈な光、また、ネオンサインのように実際に光るアート等、多彩な光の表現に直接触れることができました。

これからはより多くの光の表現方法を取り入れて、自身の絵の質を向上させてゆきたいと思えます。

このような研修機会をいただけたことに深く感謝いたします。



キッズゲルニカ なみえ創成小・中学校作品



キッズゲルニカ野外展示



第104回二科展 特別展示企画

- ウクライナ作家との交流展 ウクライナ作家と二科展作家の交流展示。
- キッズゲルニカ 会場に福島浪江、野外会場に海外の子供たちの大作作品を展示。
- コラボ展示企画 起き上がりこぼしプロジェクト
 コラボ展示各会場に各国著名人と二科4部門参加会員の絵付け作品が並んだ。
- 第104回二科展コラボ展示 テーマ「ネコ・イヌ・花・鳥」
 寄贈作品が当たる抽選券付きスタンプラリー、ゴールでコラボバッジがもらえる企画も好評継続。参加会員バッジ、絵葉書、コラボ図録を作成し販売した。



第104回二科展 写真部・デザイン部 2階会場



9月7日・8日 写真部・デザイン部ギャラリートーク



東北支部連合展 五回展を終えて

東北担当理事 中島 敏明



河北新報 2019年6月23日

2015年の第1回展から今年の第5回展まで東北支部連合展が、杜の都仙台「せんだいメディアテーク」に於いて開催された。

東日本大震災からの復旧・復興途中にある東北の地で、二科会として義援活動に加えて模索しながら結成されたのが東北支部連合である。

北の玄関口福島県から宮城・山形・岩手・秋田、そして本州最北の青森まで、東北6県の面積は本州の約3割を占める。その広大なエリアに点在する小規模な支部が一箇所に集まり、同じ目的で活動するのは容易なことではない。本部からの賛助出品と研究会は、当初3年の目安であったが、連合同人の熱意情熱もあり

5年に延びた。本部からの先生方の並々ならぬ熱意と圧巻の指導力もあり、初期の目的はほぼ果たされたと感じている。

東北6県同人の二科展(絵画・彫刻)に於ける受賞者は、2010年の第95回展から2014年の第99回展までの5年間で7人であったが、東北支部連合展を立ち上げた2015年の100回展から2019年の104回展までの5年間は35人と、大きく伸張した。2012年には会員が0人になり、危惧を懐いた年もあったが、現在は会員6名となった。これは本部、理事の先生方のご指導が、指導者(公員)の少ない連合の制作意欲と、質の向上等のステップアップに大きく

貢献した証である。東北における「二科展」の知名度は他の地域に比べ決して高くない。その地域で開催した東北支部連合展であったが、地域の方々に「作家の説明が聞けてとても良かった」「他の会にはないクオリティーが高い展覧会」等の声があった。作品研究会では、理事の先生から直接指導を受けられる一流の団体の稀有な展覧会ということが、東北の方々に徐々に認知され広まってきたと聞いている。一方、回を重ねる毎に増加すると思われる連合展の出品者ではあるが、1回展から5回展までの推移をみると、宮城県・山形県は大幅に増加したものの、他の県は現状維持もしくは減少傾向にある。これは従来の各支部展に加え連合展・本展と複数展となり、搬出入の費用や高齢化が影響していると思われる。幾つかの課題はあるが、今後東北支部展継続開催の長所を強く広くアピールすることで克服できるものと考えられる。引き続き東北支部連合展にご協力をお願い致します。

最後に、支部連合展の及川代表・須田会員・石川事務局長・椎名会計・彫刻の工藤(直)会員に多大のご尽力を戴き、感謝申し上げます。

計報
 絵画部会員
渡邊 丞氏



二〇一九年八月三日逝去
 享年82歳
 略歴
 一九五八年 第43回展初入選
 一九七〇年 第55回展特選
 一九七四年 第59回展会友推挙
 一九八三年 第68回展会友賞
 一九九九年 第84回展会員推挙



チムニーのある景 F100
 第100回記念展出品作

計報
 絵画部会友
黒木 日良志氏

二〇一九年十月三日逝去
 享年85歳
 略歴
 一九八七年 第72回展
 一九九〇年 日本美術協会賞
 一九九五年 第75回展会友推挙
 第80回展会友賞

2020
 春季二科展
 令和2年4月17日〜24日
 東京都美術館

トピックス

木戸征郎監事・二科熊本支部長が、文化芸術分野で長年にわたり活躍し、後進の育成にも力を注いだ功績により熊本県芸術功労者として顕彰されました。

絵画部門での選出はひとりで、「顕彰式では多くの来賓のご祝辞に誇らしく、出席の支部全員が感動いたしました」と、二科熊本支部から喜びのお便りです。

帝国ホテル二科サロン

- 第1期(4月14日〜4月17日)
 深見まさ子 大桑和子
 上右直美 有馬広文
 渋谷良子 黒川美紗子
 川人 和行 黒川壽子
 日比野恵美 坪田裕香
- 第2期(4月7日〜7月7日)
 佐野明子 石川由巳子
 小野由紀子 河野 眸
 鈴木真木子 筒井通子
 佐藤幸光 矢澤恵子
 上林泰平 鈴木裕己
 山田圭子
- 第3期(7月7日〜10月6日)
 植岡和子 大島麻琴
 田中節子 三宅敦子
 橋本弘子 中村 紘子
 猪立山三 磯貝亨平
 出月智子 河村尚善
 小南治次
- 第4期(10月6日〜1月12日)
 山中惇孝 野平智広
 安坂伸司 福島菜菜
 宮本恵美子 武部美智子
 田原 馨 吉村彩菜恵
 櫻井篤子 前川普佐雄
 若松由利子

事務局だより

大型台風の影響は尋常でなく、自然災害の脅威を日毎に感じさせられた今秋でした。台風の影響では開館時間の変更、野外展示キッズゲルニカの一時撤去、そして再展示を余儀なくされましたが、絵画部彫刻部の連携プレーで無事に終了する事ができました。

世界遺産・首里城の火災等、悲しい報道が流れる中、なみえ創成小中学校のキッズゲルニカが来秋、ピカソ生誕の地スペインで二十五周年イベント展示の予定となる嬉しいニュースや、二科展閉会式に列席された大使館二等書記官やウクライナ作家の喜びのスピーチがありました。

した。そしてウクライナ大使から「言葉も文化も異なる我が国のアーティストの受け入れに、慣習の違いなどが多々あったにも関わらず、寛大かつ親切に交流させていただいた事に感謝し、改めてアートの国境をこえんと実感しました」と感謝の手紙が寄せられ、田中理事長も直筆の礼状を送られ、国際交流展示は二科展に新しい一頁を綴りました。

今年も皆様のご協力を頂いた年となりました。先生活方のマイコップのご協力、車で美術館に来た彫刻部会員の多大なるご協力、そして心温まる有志のご協力のおかげで、美術館のサポートの方から「大きな団体で

あるのにゴミの量と出し方は素晴らしい」と言われたのが印象的でした。

令和元年は二科展QRコード導入元年ともなりました。ポスター・チケット・招待葉書に表記されたQRコードで展示会の会期、美術館の地図や行き方、また会期が始まると五十音の早見表がピンポイントで拡大され読み易いものとなりました。また二科会公式HPではインデックス頁に二科会プレス頁が設けられ、国際色豊かとなった今年のプレスリリース情報源として重要な役割を果たしました。簡単に情報が入手出来る様になった昨今、逆に間違った情報も瞬時にネット上に流出されるといふ事にもなります。二科展は組織の異なる二つの別法人と共に開催しておりますが、公益社団法人二科会が二科展を所管し、主催しておりますので、全てにおいてその責任も問われる事になります。専門家のご意見も伺い、合議制組織の適切な手続きのもとで課題を一つ一つ乗り越えて来年の記念二科展の準備を進めて参りたいと思っております。

事務局長 埴珠世

編集後記

▽新しい元号のもとの二科展は、平和がテーマに重なり合う特別展示企画で、賑わいのある会場でした。紙面にはイベントの華やかさをお伝えできるよう画像を多く配しました。▽昨年からは絵画部会場は撮影解禁になっていきます。コラボ展示会場の、国内外著名人や新たに二科会員が絵付けをした起き上がりこぼしと、楽しいカラフルなテーマ作品などを熱心にスマホ撮影される方を多数お見かけしました▽絵画会員4氏による任意に選ぶ作品の寸評は、広い会場の全展示作品は対象にできないため、今号は特選・会友賞・会友推挙の作品からの選択です。

編集委員

- 委員長(総) 野村 みそら
 委員(総) 田川 絵理
 " " 尾崎 ゆき子
 " " 谷口 貞久
 " " 宮廣 友彦
 " " 澤光 造

令和元年十一月十日発行
 公益社団法人 二科会
 〒160-0022 東京都新宿区新宿4-13-15
 レイフラット新宿501号室
 電話 03-3354-6646
 FAX 03-3354-4768